第2次都立動物園マスタープラン
恩賜上野動物園　推進計画

令和5年3月

東京都建設局

目次

１．推進計画について
（１）推進計画策定の考え方
（２）計画の見直しについて

２．恩賜上野動物園について

３．各園基本方針
（１）園の取組の方向
（２）目指す姿ごとの方針

４．飼育展示計画
（１）飼育展示計画とは
（２）飼育展示計画におけるエリア区分と飼育動物の分類
１）飼育展示計画におけるエリア区分の設定
２）飼育動物の分類
（３）園の飼育展示コンセプト
（４）エリアごとの計画　～展示コンセプト・飼育動物・重点的取組～

５．教育普及計画
（１）教育普及計画とは
（２）教育普及テーマについて
（３）園の教育普及コンセプト
（４）教育普及テーマごとの計画　～取組計画・主な実施項目～

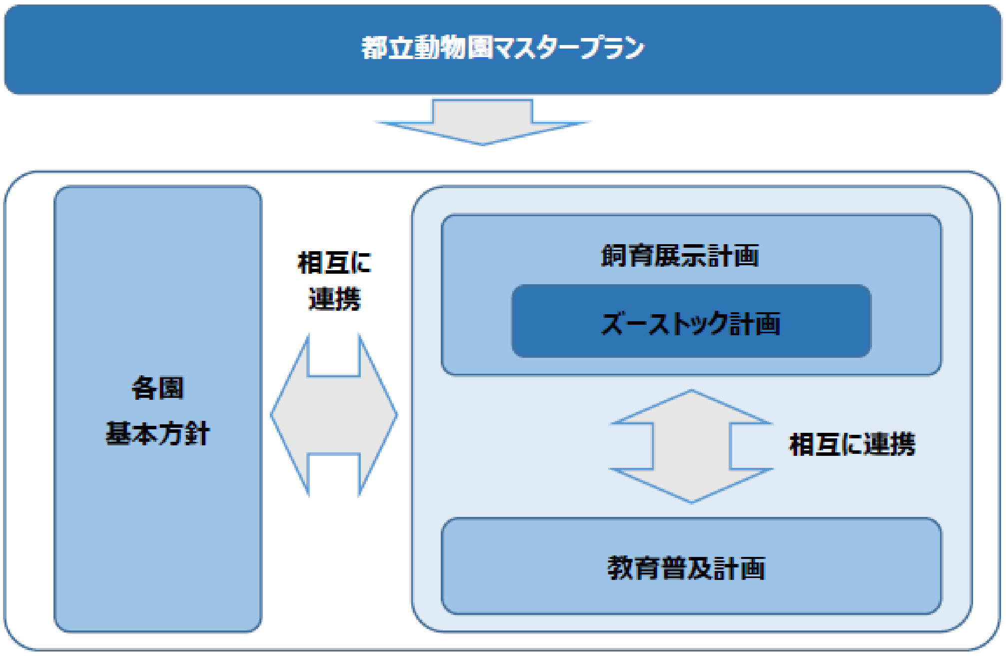
１．推進計画について

（１）推進計画策定の考え方

都は「動物園・水族館の持つ４つの機能を強化していくこと」と「持続可能な開発目標(SDGs ： Sustainable Development Goals)の達成に寄与すること」という２つの基本的な考え方を踏まえ、令和２年 11 月に都立動物園の目指す姿と取組の方向性を示した第２次都立動物園マスタープラン（以下、「マスタープラン」という）を策定しました。

マスタープランでは、その下位計画として、各園の取組の方向性や、具体的な内容を取りまとめた「各園基本方針」、「飼育展示計画」、「教育普及計画」を策定し、都立動物園の４つの目指す姿（魅せる・伝える・守る・極める）の実現に向けた取組を進めることとしています。

この度、マスタープラン 第４章「各園の目指す姿と取組の方向」を踏まえ、第２次計画期間(令和３～12 年度)中の、恩賜上野動物園の下位計画を取りまとめ、「恩賜上野動物園のマスタープラン推進計画」として策定しました。今後、本推進計画の取組を着実に推進していくことで、恩賜上野動物園におけるマスタープランの目指す姿を実現するとともに、野生動物の保全と環境への理解を促し、人と動物がともに生きていくことのできる地球環境を守り、未来に引き継いでいきます。



マスタープランにおける下位計画(推進計画)の位置づけ ※マスタープラン p.17 抜粋

※ズーストック計画：平成 30 年 10 月策定。124 種を対象に、希少種の保全や、環境学習の推進、生息域内保全への貢献を図る計画

（２）計画の見直しについて

本計画は、社会情勢や、国内外の動物管理計画などの変化を踏まえ、中間年度を目途に見直しを検討します。

２．恩賜上野動物園について

恩賜上野動物園は、日本で最初に開園した動物園であり、明治 15(1882)年に農商務省所管の博物館付属施設として開園しました。その後、明治 19(1886)年に宮内省所管となり、大正 13(1924)年に皇太子殿下(後の昭和天皇)のご成婚を記念して、当時の東京市に下賜されました。

敷地面積は約 14ha で、都市型の総合動物園として、コンパクトな敷地の中で、ジャイアントパンダやアイアイなど、様々な野生動物の飼育展示・繁殖に成功してきました。様々な動物の魅力発信と同時に、野生動物保全の重要性を世界に発信しており、首都東京の動物園として、日本を代表する動物園の一つとなっています。

３．各園基本方針

（１）園の取組の方向

マスタープランで定めた恩賜上野動物園の目指す姿（マスタープラン p.90 参照）を踏まえ、園の今後の取組に対する考え方を「園の取組の方向」として、以下のとおり定めました。

- ○　激動する社会環境の中で、時代の要請に応え、持続可能な動物園としていくため、恩賜上野動物園の各部門の連携を図り、様々な課題への臨機応変な対応を行っていきます。
- ○　人、動物、環境の各分野に関わる者が、それぞれの専門的知見を活かし、互いに連携して分野横断的な課題に対し対応する One Health（ワンヘルス）の考え方を踏まえ、動物園としての果たすべき役割を担っていきます。
- ○　来園者が、生物多様性について学び、希少種の保全の重要性について知ることができるよう、ＩＣＴ技術も活用した環境学習に取り組みます。
- ○　私たちの地球を守り、子どもたちに残していくため、SDGｓの実現に向けた取組を進めていきます。
- ○　日本で最初の動物園であり、長い歴史と伝統を有し、日本を代表する首都東京の動物園として、総合的な動物園としての役割を発揮していきます。

（２）目指す姿ごとの方針

「園の取組の方向」に基づき、都立動物園の目指す姿（マスタープラン p.15 参照）ごとの視点から整理したより具体的な方針を、「目指す姿ごとの方針」として定めました。ハード面とソフト面の両方の視点を踏まえることで、目指す姿の効果的な実現を目指します。

魅　せ　る

- ○　老朽化した施設の更新を進めるとともに、環境エンリッチメントを推進し、動物たちがいきいきと暮らす動物園を作り、動物と動物園の魅力を最大限に高めていきます。
- ○　文化施設、商業施設を多く有し、賑わいあふれる上野の地域性を踏まえ、近隣施設等と連携して取組を進め、上野地域の魅力アップに寄与していきます。
- ○　大都市の中心部に位置する動物園として、高い利便性を持ち、多様な来園者を迎える動物園として、一層ユニバーサルデザインに配慮し、快適で安全な観覧環境とホスピタリティを提供します。
- ○　先端技術や様々な手法を活用した、効果的な情報発信に努め、園内外で様々な情報を発信していきます。

伝　え　る

○　教育普及センターや他の都立４園、国内外の動物園や野生動物保全活動機関など様々な主体と連携し、野生動物保全の重要性等のメッセージを多様な人々へ発信していきます。

○　国内有数の来園者数を活かし、動物の生態や野生での生息環境に関する情報など、多くの人々が、保全のための行動の第一歩を踏み出せるメッセージを、様々な媒体を駆使して発信していきます。

○　「子ども動物園すてっぷ」の体験型の活動や経験を通して、子どもたちの「学び」を深化させる、先駆的な取組を進めていきます。

守　　　る

○　ジャイアントパンダやライチョウ、ルリカケスなど希少種の生息域外保全の拠点としての機能向上を図り、生息域内と連携した取組を進めます。

○　長い歴史を有する、日本を代表する動物園として、引き続き日本をリードしていくためのコレクションプランを策定し、種の保存の機能と展示の両立を図ります。

○　JAZA※などと連携した適切な血統管理を通じて、持続可能な動物園を作っていくため、国内外の動物園等との連携を図っていきます。

極　め　る

○　最先端の設備を持つ動物医療センターを活用し、高度な獣医療を提供し、発展させていきます。

○　国内外の機関との連携した研究や保全活動を進めるとともに、その成果を積極的に発信していきます。

○　長い歴史の中で培ってきた飼育技術を園内外と共有するとともに、新たな知見も積極的に取り入れ、日本をリードする動物園としての役割を果たしていきます。

○　SDGｓの実現に向けた様々な取組を進めるとともに、園の発信力を活かした普及啓発に努めます。

※ JAZA：公益社団法人日本動物園水族館協会

４．飼育展示計画

（１）飼育展示計画とは

「目指す姿ごとの方針」のうち、主に「守る」、「極める」で定めた方針に基づき、「何のために、その種を飼育し、展示し、どのように活用し、何を伝えていくのか」を定めたものが飼育展示計画です。園のエリア区分や動物舎ごとに、展示コンセプトを設定し、それに基づいてどの種を飼育し、主にどのような取組を重点的に行っていくのかを記載しています。

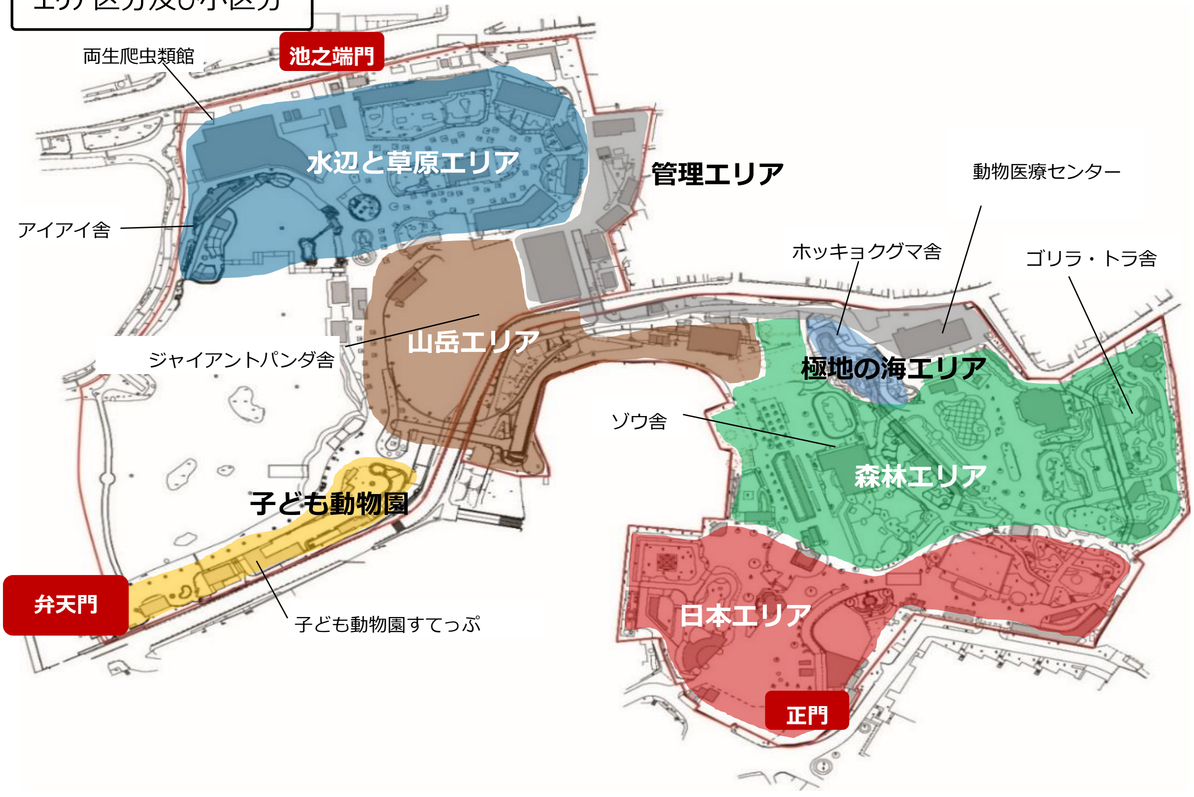
飼育展示する動物を、その意義や必要性に応じて整理し、それに沿った取組を推進することで、限られた施設や資源を有効に活用し、持続可能な飼育展示や野生動物保全への貢献、教育普及効果の向上を目指します。

（２）飼育展示計画におけるエリア区分と飼育動物の分類

１）飼育展示計画におけるエリア区分の設定

飼育展示計画におけるエリア区分は、マスタープランに記載されたエリア区分を基本として設定しています。なお、展示コンセプトや飼育動物に応じて一部、小区分を設定しています。

エリア区分及び小区分



場所	エリア区分	小区分
東園	日本エリア	日本の動物
		猛禽舎・キジ舎
	森林エリア	ゾウのすむ森
		ゴリラ・トラの住む森
		クマたちの丘
		サル山、サル舎
		バイソン舎
		バードハウス・バードケージ・ツル舎・クロトキ舎
	極地の海エリア	
西園	山岳エリア	
	水辺と草原エリア	アイアイのすむ森
		アフリカの動物
		小獣館
		不忍池
		両生爬虫類館
	子ども動物園エリア	

２）飼育動物の分類

エリア区分や動物舎ごとの展示コンセプトを踏まえ、全ての飼育動物について、長期的な視点で飼育動物ごとに保全の優先性、展示効果、教育普及効果、アニマルウェルフェア（動物福祉）※1（以下、「アニマルウェルフェア」という）の確保、搬出入の見通しといった観点から、その意義や必要性を検討し、以下の４つのカテゴリーに分類しました。

なお、野生での生息状況や飼育管理技術の向上など状況の変化により、必要に応じて飼育動物の分類を変更していきます。

・優先種：優先的に保全・繁殖に取組む必要性、または展示・教育普及上の意義が高く、特に積極的に飼育展示に取り組むべき種

・維持種：単性飼育や必要に応じた繁殖など、それぞれの種の状況に即した管理を行いながら、長期的に継続して飼育展示を行う必要性がある種

・検討種：新規導入を検討する種又は飼育展示の終了も含め検討を要する種
①展示効果や保全、教育普及上の意義などが見込まれ、今後新たな導入について検討する種
②搬出入の見通しや、アニマルウェルフェアの確保などの観点から、今後の継続的な飼育展示について終了することも含め検討する必要がある種

・断念種：搬出入の見通しや、アニマルウェルフェアの確保などの観点から今後、継続して個体を維持していくことが困難であり、順次飼育展示を終了※2していく種

※１　一般に「個体が幸せであると主観的に感じる状態」[1] とされているが、動物の主観的状態を理解するのは困難であるため、本計画では「その動物にとって、科学的に妥当な飼育管理」と定義する。

[1] Hosey, G., Melfi, V. and Pankhurst, S.（村田浩一, 楠田哲士監訳, 2011）: 動物園学. 221. 文永堂出版, 東京

※２　将来的な繁殖可能性や飼育スペースの確保、個体の年齢など様々な要因を考慮し、園での終生飼育や、他施設への搬出など、それぞれの個体に適した方法を検討した上で、それに応じた適切な時期に飼育展示を終了していく。

（３）園の飼育展示コンセプト

恩賜上野動物園における飼育展示の考え方を、以下のとおり「園の飼育展示コンセプト」として定めます。

○日本をリードする動物園として、野生生物保全や環境学習など、動物園に求められる機能を率先して強化していきます。

○上野公園の自然の景観を活かすとともに、それぞれの動物の生息環境に近い飼育環境を提供できるように工夫し、アニマルウェルフェアの向上に取り組みます。

○動物たちの生態的特徴や行動を来園者に見せることで、子どもから大人まで、楽しみながら学べる「生きた博物館」を目指します。

○長い歴史で培った技術や知見を活かすとともに、最先端技術の活用や、国内外の動物園や研究機関等との更なるネットワーク強化により、園の機能向上を図ります。

（４）エリア区分ごとの計画　～展示コンセプト・飼育動物・重点的取組～

【日本エリア】

▶日本の動物

（主な施設）

日本の鳥Ⅰ、日本の鳥Ⅱ、エゾシカ舎

▶飼育展示コンセプト

○奄美諸島の希少固有種であるルリカケスから、身近で目にする小型鳥類まで、多様性に富んだ日本産鳥類の飼育展示を行い、培った飼育繁殖技術で生息域外・域内保全に貢献する

○多様な種を飼育し、比較展示することで、それらの生態や、形態などを観察できる場とする

▶主な飼育動物

優先種：ライチョウ、ルリカケス

維持種：エゾシカ、ニホンカモシカ、ニホンリス、タンチョウ、オオカワラヒワほかスズメ目鳥類、カラスバト、シラコバト、コジュケイ

検討種：①オガサワラカワラヒワ

②カシラダカ

断念種：アカマシコ、ヒバリ

▶重点的取組

○保護増殖事業やズーストック計画に基づいた、ライチョウ、ルリカケスの繁殖推進と生息域外保全

○オガサワラカワラヒワの生息域外保全を視野に入れた、近縁種飼育による飼育技術確立

○カラスバトなど、国内希少種や繁殖困難種の飼育繁殖技術の向上

○ニホンカモシカとエゾシカの、生息環境や角の違いなどに着目した普及啓発の取組

ルリカケス

人工授精で孵化したライチョウの雛

▶**猛禽舎・キジ舎**

（主な施設）

猛禽舎、フクロウ舎、旧正門前鳥舎

▶**飼育展示コンセプト**

○生態系ピラミッドの上位に位置する猛禽類の、生態的特徴や独特な行動を見せることによる、生き物の多様性を伝える

○多様な猛禽類を展示し、自然保護のアンブレラ種として役割を伝えるとともに、日本に生息するキジ類等も展示することで、生き物同士のつながりを見せ、その生息環境や保全への理解を深める

▶**主な飼育動物**

優先種：オオワシ、クマタカ、キジ、アカガシラカラスバト

維持種：シロフクロウ、フクロウ、シラコバト、コンドル、コシジロハゲワシ、パラワンコクジャク

検討種：①ヘビクイワシ、コシジロヤマドリ、ハヤブサ、オオタカ等、中小型ワシタカ類（ノスリ後継種）、ワシミミズク等寒冷地に生息するフクロウ類

②ノスリ、ツミ、オオコノハズク

断念種：ダルマワシ、モモアカノスリ、ハゲガオホウカンチョウ、コシアカキジ、ヤブツカツクリ

▶**重点的取組**

○クマタカ、オオワシ等日本産猛禽類の、ズーストック計画に基づく繁殖推進と技術の向上

○アカガシラカラスバトやフクロウ、キジ等、国内の絶滅危惧種や、身近な鳥類の展示を通じた、保全の重要性の発信

ズーストック種に指定されているオオワシ

キジ（オス）

【森林エリア】

▶ゾウのすむ森

（主な施設）

ゾウ舎

▶飼育展示コンセプト

○豊かな緑と、土を取り入れた展示により、東南アジアの森で生活するゾウの自然な姿を見せる

○ゾウの大きさや特徴的な体のつくり、ハズバンダリートレーニングを間近に観察できる施設を活かし、ゾウの能力や飼育管理への理解を深める

○群れで飼育することにより、個体間のコミュニケーションなど、ゾウの高度な社会性を伝える

▶主な飼育動物

優先種：アジアゾウ

維持種：なし

検討種：①なし

②なし

断念種：なし

▶重点的取組

○JAZA の種管理計画に基づいたアジアゾウの繁殖推進

○アジアゾウのアニマルウェルフェアと、飼育担当者の安全を両立する準間接飼育技術の確立

アジアゾウの繁殖 「アルン」の誕生

準間接飼育のための柵
「プロテクテッド・コンタクト・ウォール」（PC ウォール）

▶ゴリラ・トラの住む森

（主な施設）

ゴリラ舎、トラ舎、テナガザル舎、夜の森

▶飼育展示コンセプト

〇ニシゴリラやスマトラトラなど、熱帯雨林に生息する動物を、現地の風景を模した施設で展示することで、多様な生物をはぐくむ自然と、野生生物保全への興味を喚起

〇生態に即した飼育管理を通じて、ニシゴリラの高度な社会性や、群れの中での繁殖・育児などの生態を展示する

▶主な飼育動物

優先種：ニシゴリラ、スマトラトラ

維持種：シロテテナガザル、スンダスローロリス、デマレルーセットオオコウモリ、コサンケイ

検討種：①小型ネコ科動物（アムールヤマネコ等）

②アメリカバク、ミミセンザンコウ、マクジャク

断念種：なし

▶重点的取組

○JAZA の種管理計画をはじめとした、各繁殖計画に基づくニシゴリラ、スマトラトラなど希少種の繁殖の推進及び保全

○霊長類のアニマルウェルフェアに配慮した、適切な飼育管理の一層の推進

ニシゴリラの生態に合わせた群れ飼育

スマトラトラ

▶クマたちの丘

（主な施設）

クマ舎

▶飼育展示コンセプト

〇熱帯から亜寒帯に生息するクマ類を比較展示し、それぞれの種の生態に基づく特徴的な行動を引き出し、多様性を伝える展示を行う

▶主な飼育動物

優先種：ツキノワグマ

維持種：エゾヒグマ、マレーグマ、コツメカワウソ

検討種：①なし

②ハクビシン、アナグマ、カヤネズミ、ヒメネズミ

断念種：なし

▶重点的取組

○クマ類の JAZA 種管理計画に基づく、他園や関連団体との連携

○冬眠するクマの生態を、より分かりやすく伝える展示改善の実施

冬眠ブース内でのツキノワグマの冬眠展示

熱帯・亜熱帯気候の地域に生息するマレーグマ

▶サル山、サル舎

（主な施設）

サル山、サル舎

▶飼育展示コンセプト

〇国の天然記念物に指定されている下北半島のニホンザルを展示し、世界のサル類の中で、最北の地域に分布するニホンザルの生態を紹介する

〇世界に生息するサル類の、それぞれの行動を引き出す展示により、生物の多様性を伝える

▶主な飼育動物

優先種：ニホンザル（下北）

維持種：アビシニアコロブス、ジェフロイクモザル、ブラッザグエノン

検討種：①なし

②シロガオサキ

断念種：ニホンザル（亜種間雑種）

▶重点的取組

○下北半島のニホンザルの、飼育維持および生態の普及啓発

○外国産サル類の、遺伝的多様性を保持した個体群の計画的維持

下北半島のニホンザルの
繁殖による個体群維持

ジェフロイクモザル

▶バイソン舎

（主な施設）

バイソン舎

▶飼育展示コンセプト

〇アメリカバイソンとオグロプレーリードッグの複合展示と、行動を引き出す展示により、来園者に野生での生息環境を想起させるとともに、動物本来の生態を見せる

▶主な飼育動物

優先種：なし
維持種：アメリカバイソン、オグロプレーリードッグ
検討種：①なし
　　　　②なし
断念種：なし

▶重点的取組

○プレーリードッグの地中での行動や、育児の様子など、生態に関する情報発信
〇アメリカバイソンとプレーリードッグの、安定的な展示個体の維持

アメリカバイソン

▶バードハウス・バードケージ・ツル舎・クロトキ舎

（主な施設）

バードハウス、バードケージ、ツル舎、クロトキ舎

▶飼育展示コンセプト

〇鳥と植物が共存する展示施設の中で、希少種や熱帯に生息する鳥類を展示し、その生態や、生息環境を守ることの重要性を伝えるとともに、保全活動に貢献する

〇ツル類を他の鳥類と比較展示して、多様性とその種独自の特徴を伝えるとともに、傾斜地にある施設を活用し、樹上で営巣する鳥類の生態を、来園者の目線で観察できるような展示を行う

▶主な飼育動物

優先種：アカガシラカラスバト

維持種：ミナミコアリクイ、ソデグロバト、シロクロゲリ、ゴイサギ、コミドリコンゴウインコ、ウズラ、カワセミ、ヒノマルチョウ、カンムリシャコ、パラワンコクジャク、ホオカザリヅル、タンチョウ、ホオアカトキ、アフリカクロトキ、カブトニオイガメ

検討種：①ナベヅル、マナヅル

②シロハラハイイロエボシドリ、カンムリシギダチョウ、キンムネオナガテリムクほかスズメ目、ボウシゲラ、クロエリセイタカシギ、ミヤコドリ、カンムリエボシドリ、アフリカヘラサギ、マダガスカルトキ、ナイルチドリ、ツメバゲリ、ミノバト、アオバズク、アオメキバタンほかインコ類、オオコノハズク、リュウキュウアカショウビン、オニオオハシ、ワライカワセミ、カンムリコサイチョウ、オグロヅル、シュモクドリ、ハゲトキ

断念種：ヘビクイワシ（猛禽舎へ移動）

▶重点的取組

〇アカガシラカラスバトの保護増殖事業に基づいた取組の推進

〇JAZA 種管理計画等に基づく、他園館との連携による継続的な飼育管理

バードハウス（２階）

アシガラカラスバト

【極地の海エリア】

（主な施設）

ホッキョクグマの海、アザラシの海、小動物舎（北にすむ鳥）

▶飼育展示コンセプト

〇極地に生息するホッキョクグマと、その捕食対象であるアザラシ類などを合わせて展示することにより、極地の生態系を伝える

〇陸上および水中で生活するホッキョクグマとアザラシの飼育展示や繁殖を通じて、行動を多面的に見せる展示を行い、動物本来の姿を観察できる場を提供する

〇近縁種であるスバールバルライチョウの飼育を通じて、日本産のライチョウの飼育繁殖に活用できる知見集積を行い、生息域外保全や調査研究に貢献する

▶主な飼育動物

優先種：ホッキョクグマ

維持種：ゼニガタアザラシ、スバールバルライチョウ

検討種：①なし

②カリフォルニアアシカ

断念種：なし

▶重点的取組

○JAZA の種管理計画及びズーストック計画に基づくホッキョクグマの繁殖推進

〇アザラシの繁殖

○ライチョウの生息域外保全を視野に入れた、スバールバルライチョウの飼育繁殖技術の開発

ホッキョクグマの同居

スバールバルライチョウのヒナ

【山岳エリア】

（主な施設）

ジャイアントパンダ舎、レッサーパンダ舎、西園キジ舎

▶**飼育展示コンセプト**

○上野公園の緑の景観を背景とした飼育展示施設を活かし、来園者にジャイアントパンダの生息環境を想起させる展示を行う

○ジャイアントパンダの域外保全の取組や、中国に生息する動物の展示などを通じて、野生動物保全について知るきっかけを提供する

▶**主な飼育動物**

優先種：ジャイアントパンダ

維持種：レッサーパンダ、キンケイ、ギンケイ、ベニジュケイ

検討種：①なし

②なし

断念種：なし

▶**重点的取組**

○ジャイアントパンダ保護研究協力プロジェクトに基づいた、繁殖や普及啓発の取組推進

○レッサーパンダや中国に分布する鳥類の展示による、生息環境と生物多様性保全への理解促進

保護研究協力プロジェクトによる
ジャイアントパンダの繁殖

パンダのもり
屋外放飼場

【水辺と草原エリア】

▶アイアイのすむ森

（主な施設）

アイアイの森、レムールの森

▶飼育展示コンセプト

〇アイアイをはじめとするマダガスカルの野生動物が、現地の自然をイメージさせる展示の中でいきいきと活動する姿を見せ、キツネザル類の多様性、生態の違い、動物の進化などが実感できる展示をつくる

〇マダガスカルに生息する希少動物の繁殖を推進するとともに、野生の生息状況や環境保全の大切さを普及啓発するなど、域外保全に貢献する

▶主な飼育動物

優先種：アイアイ、ワオキツネザル、クロシロエリマキキツネザル

維持種：クロキツネザル、ヒメハリテンレック、ホウシャガメ、マダガスカルオオゴキブリ

検討種：①ブラウンキツネザル、シマテンレック、パンサーカメレオン、ネッタイタマヤスデ

②ハリテンレック

断念種：フォッサ、マダガスカルトキ（東園バードハウスでの飼育繁殖を検討）

▶重点的取組

○アイアイの国際的管理計画に基づいた搬出入と繁殖推進

○キツネザル類の管理計画・飼育基準に基づいた適切な管理

○マダガスカルの動物の進化や、多様性、環境保全についての普及啓発

国際的な連携によるアイアイの繁殖と保全

ハズバンダリートレーニング成果による
クロシロエリマキキツネザルでの採血

▶アフリカの動物

（主な施設）

カバ舎、コビトカバ舎、キリン舎、オカピ舎、ハシビロコウ舎

▶飼育展示コンセプト

○カバとコビトカバ、キリンとオカピなど、アフリカに生息し、環境に合わせて様々に形態を変化させてきた近似種の比較展示を通じた、動物の進化と生息環境を実感できる場とする

○動物の生息環境や生態に合わせた展示施設や、アニマルウェルフェアに配慮した飼育により、生息域外保全に貢献し、生物多様性や自然環境の大切さについてのメッセージを伝えていく

▶主な飼育動物

優先種：オカピ、コビトカバ、ケープペンギン

維持種：キリン、カバ、ベニイロフラミンゴ、ハシビロコウ

検討種：①なし

②なし

断念種：バーバリーシープ、ヒガシクロサイ、クビワペッカリー、オオカンガルー

▶重点的取組

○他園や関連団体と連携した、ズーストック種の繁殖や保全の推進

○アフリカに生息する動物の生態や、形態的特徴を引き出す展示への改善

○環境に適応した進化や、保全の取組についての普及啓発

近似種であるキリンとオカピの比較展示

ヒガシクロサイのエンリッチメント

▶小獣館

（主な施設）

小獣館

▶飼育展示コンセプト

〇小型哺乳類の展示を通じた、哺乳類の多様性を実感できる場とする

〇絶滅の危機に瀕する小型哺乳類の展示や繁殖を通じた、来園者に保全について学習するきっかけを提供する

▶主な飼育動物

優先種：ワタボウシタマリン、マヌルネコ、レッサースローロリス、ハダカデバネズミ

維持種：ケープハイラックス、キンカジュー、コビトマングース、ニホンモモンガ、マタコミツオビアルマジロ、ツチブタ、オリイオオコウモリ、セバタンビヘラコウモリ、ヒゲカンガルーハムスター、ヒメネズミほか日本産野ネズミ類

検討種：①ヤマネ、オガサワラオオコウモリ、フサオネズミカンガルー

②アフリカヤマネ、デグー、ミーアキャット、コモンマーモセット

断念種：ツパイ、ミケリス、ムツオビアルマジロ、ハリモグラ、オオミユビトビネズミ、コタケネズミ、パンパステンジクネズミ、ショウガラゴ、フクロモモンガ、ヨザル、スラウェシメガネザル、ソマリアガラゴ

▶重点的取組

○JAZA の種管理計画及びズーストック種の計画に基づく繁殖の推進

○生息環境を再現した展示による、動物の適応・進化や保全についての普及啓発

マヌルネコの親子

特徴的な小型哺乳類の展示
（マタコミツオビアルマジロ）

▶不忍池

（主な施設）

新タンチョウ舎

▶飼育展示コンセプト

〇不忍池の景観を活用し、かつては東京にも生息していた鳥類などを展示することで、水辺の生態系を体感できる展示を創る

〇カモなどの水鳥類、トンボ類、蓮など、季節ごとに変化する野生動植物の観察の場とする

▶主な飼育動物

優先種：なし

維持種：シジュウカラガン、タンチョウ、コウノトリ

検討種：①ユーラシアカワウソ

②なし

断念種：オオワシ、モモイロペリカン

▶重点的取組

○不忍池を活用した、水辺に生息する動物の生態展示

○JAZA の種管理計画及びズーストック種の計画推進

○都会にいながら自然を身近に感じてもらえる展示と、環境保全の普及啓発

シジュウカラガン

不忍池畔の新タンチョウ舎

▶両生爬虫類館

（主な施設）

両生爬虫類館

▶飼育展示コンセプト

〇外国産の両生類・爬虫類のバラエティに富んだ展示を行うことで、両生類・爬虫類の多様性、形態・生態の違い、進化の過程などを学ぶ場とする

〇関東地方の身近な両生類・爬虫類から、日本固有種や小笠原諸島、南西諸島の希少種まで幅広い飼育種を通して、身近な自然・生き物への関心を喚起し、保全活動の重要性を伝える

▶主な飼育動物

優先種：アカハライモリ、トウキョウサンショウウオ、アズマヒキガエル、ミヤコカナヘビ、アナカタマイマイなど

維持種：イベリアトゲイモリ、グレーターサイレン、オオサンショウウオ、アイゾメヤドクガエル、ニホンイシガメ、ガラパゴスゾウガメ、ニホンカナヘビ、アメリカドクトカゲ、アオダイショウ、エメラルドツリーボア、アジアアロワナ、オーストラリアハイギョなど

検討種：①コモドオオトカゲ　（イリエワニの展示が終了した場合）

②ベルツノガエル、マルメタピオカガエル、ニシアフリカコガタワニ、パンサーカメレオン、ボールニシキヘビ、渓流魚など

断念種：チョウセンスズガエル、アンナンガメ、イリエワニ、テングキノボリヘビ、キッシンググラミー、キンムネオナガテリムクなど

▶重点的取組

〇ズーストック種および保全対象種（日本産両生類・爬虫類、小笠原産陸産貝類）の累代飼育・展示の継続、保全活動への取組の紹介

〇生息環境を再現した展示施設におけるオオサンショウウオの飼育展示

〇魚類と両生類の進化の中間段階と考えられるオーストラリアハイギョの展示を継続する

トウキョウオオサンショウウオ

ミヤコカナヘビの生息域外保全活動

【子ども動物園エリア】

（主な施設）

ふたば牧場、鳥たちのおうち、小さな動物たちのおうち

▶飼育展示コンセプト

〇小さな子どもが初めて動物に出会う場、そして動物や自然について学びはじめる最初の一歩となる場を提供するとともに、「野生動物や自然への理解」へのステップアップを目指す

〇家畜種やモルモットなどの、身近な動物を中心に飼育し、アニマルウェルフェアに配慮した、より適切かつ効果的なプログラムの実施を通じて、命の大切さや動物の魅力を伝える

▶主な飼育動物

優先種：タテガミヤマアラシ、シマスカンク、テンジクネズミ（モルモット）、カイウサギ、家畜種（日本在来種のウマ、ブタ）、ミゾゴイ、インカアジサシ、エミュー

維持種：なし

検討種：①アルマジロ、大型インコ類、ハト類、チドリ目鳥類

②フクロウ

断念種：チョウゲンボウ

▶重点的取組

○子どもの年齢に合わせた、展示やプログラムの展開

○教科書や本などで取り上げられる動物たちの飼育展示を通じた、生きた動物への理解の促進

○モルモットなどを用いた体験プログラムによる効果的な学びの提供

子ども動物園すてっぷ

日本在来種のトカラ馬（右）と与那国馬（左）

本計画に該当する確認指標・具体的な確認項目及び目標値一覧

	確認指標	具体的な確認項目	10年目目標値（令和12年度）
取組１	来園者の視点で常設展示や施設の魅力が向上した	展示改善の実施件数	310件※1
	魅力的なプログラム、イベントが開催されている	利用者アンケートの調査結果	3.3
取組２	多くの来園者が魅力を感じて訪れる施設になっている	年間来園者数	700万人（４園合計※2）
	多様な来園者を呼び込む取組がなされている	Twitter投稿件数	—※3
取組３	誰もが快適に観覧できる環境を提供している	快適環境に向けた園内施設の維持管理実施件数	1,600件※1
	来園者が満足している	利用者アンケートの調査結果	3.6
取組５	多くの方に積極的に都立動物園や野生動物の情報を発信している	東京ズーネット投稿件数	130件
	園内外でICTなどの先端技術を活用した情報発信がされている	動画新規配信件数（ズーネットBB、YOUTubeチャンネル）	1800件※1（4園合計※2）
取組６	飼育職員による情報発信が強化されている	キーパーズトークの実施件数	1,400件
	動物園を案内するガイドツアーのプログラムが充実している	ガイドツアーの実施件数	200件
取組７	動物をテーマにした特設展・企画展が充実している	特設展・企画展の実施件数	5件
	東京都(伊豆諸島・小笠原諸島含む)に分布する野生動物に関する情報発信が強化されている	東京都に分布する野生動植物に関するズーネット投稿件数	110件※1（4園合計※2）
取組８	園外のフィールドにおいて動物の魅力を伝えるプログラムを実施し、身近な野生動物への理解を促している	フィールドプログラムの実施件数	2件
	来園が困難な方などへの環境学習プログラムが充実している	団体プログラムの実施件数及び葛西臨海水族園の移動水族館の実施回数	20件
取組９	将来の保全の担い手となりうる人材を育成している	教員セミナーの実施件数	3件
	教育的な効果が高い団体指導プログラムを実施している	学校団体向けプログラムの実施件数	430件
取組10	ボランティアの育成が進んでいる	ボランティア対象の研修会の実施件数	4件
	ボランティアとの協働による教育活動が行われている	ボランティアによる教育活動の実施件数	550件
取組11	希少種の飼育管理を適正に行い、繁殖が推進されている	国内外血統登録対象の繁殖種数	32種※1
	多様な種を飼育し、飼育個体の情報を適正に管理している	国内外血統登録対象の飼育種数	57種
取組12	計画的な飼育展示に向けた取組が進んでいる	飼育展示計画に基づいた飼育種数	156種
	種の保存のために繁殖貸借(ブリーディングローン)が行われている	繁殖貸借（ブリーディングローンの実施件数）及び保護増殖計画における動物受入実施件数	85件
取組13	ズーストック種の繁殖が進んでいる	ズーストック計画で計画どおり繁殖に成功した種数	124種※1
	ズーストック計画に基づき対象種が適切に維持管理されている	ズーストック種における「飼育繁殖」「保全情報」「普及啓発」の分野において、適切に推進されている取組数	378※1
取組14	管理技術の向上により、動物を安全かつ健康的に飼育する環境が整っている	ハズバンダリートレーニングの到達度	—※3
	飼育動物の選択肢を増やし、正常な行動を引き出し、健康的に飼育する取組が進んでいる	展示施設におけるエンリッチメントの取組件数	—※3
取組15	環境省の保護増殖事業計画対象種の保全に貢献している	種の保存法に基づく保護増殖事業計画の確認を受けている種数	13種（５園合計※4）
	生息地における保全活動や環境学習活動が推進されている	生息域内保全に貢献した活動の実施件数	20件（4園合計※2）
取組16	飼育・繁殖・環境学習等の技術継承のための場が用意されている	園内の研究会実施件数	11件
	飼育・繁殖・環境学習等の技術や研究成果が広く公表されている	研究成果の公表件数	170件※1
取組17	大学・研究機関との共同研究により新たな知見が得られている	共同研究の実施件数	70件※1
	野生動物保全の取組の必要性を広く発信している	講演会・シンポジウムの実施件数	7件
取組18	飼育繁殖に生物工学技術が活用されている	DNA分析、ホルモン測定の実施種数	70種（5園合計※4）
	動物園の個体群の維持に生物工学技術が活用されている	配偶子の凍結保存及び使用件数	610件※1（５園合計※4）
取組19	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関とのネットワークが強化されている	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関等との協定締結件数	10件（４園合計※2）
	飼育繁殖技術や展示の魅力向上のために、国際的な連携が進んでいる	海外との連携の中で行われた、会議・学会等への参加件数、動物交換、研修などの実施件数	9件
取組20	野生動物保全活動への支援が行われている	(公財)東京動物園協会の野生生物保全基金による年間助成件数	10件（４園合計※2）
	動物園が所有する野生動物を研究に活用することで野生動物の保全に貢献している	研究材料の提供件数	130件※1

※1 10 年目までの累積件数
※2 建設局所管の都立動物園・水族園
※3 新たな取組や、過去の十分な実績値の記録がないなど、現時点で適切な目標値の設定が困難な項目。取組状況を検証した上で目標値を設定する。
※4 建設局及び環境局所管の都立動物園・水族園

５．教育普及計画

（１）教育普及計画とは

「目指す姿ごとの方針」の、主に「魅せる」、「伝える」で定めた方針に基づき、どのような環境学習や利用促進などの取組を行うかを定めています。園の特色に沿った園内プログラムや展示を行うために、飼育展示計画で定めた展示コンセプトや取組とも関連する内容とし、両計画を相互に連携するものとして位置付けています。

策定にあたっては、（公財）東京動物園協会が令和２(2020)年１月に策定した教育普及事業方針を踏まえた内容としています。

本計画により、全ての来園者が動物園・水族館に魅力を感じ、楽しみながら野生動物や保全について知ることができる取組の実施を目指します。

（２）教育普及テーマについて

教育普及計画では、動物園・水族館における教育普及の取組内容を、①～⑩の分類（以下、「教育普及テーマ」という）し、これら教育普及テーマごとに、取組計画と主な実施項目を記載しています。

教育普及テーマ	
【いつでも楽しく学べる場】	① 定例の教育普及プログラムの強化
	② 動物と間近に接する体験（動物介在教育）の充実
	③ 展示での学びのサポート強化
【誰もが楽しめる場】	④ 集客力のある教育普及プログラムの強化
	⑤ 長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実
	⑥ 誰も取り残さない教育普及活動の推進
【動物の未来を考える場】	⑦ 環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化
【学校での学びをサポートする場】	⑧ 学校向けの動物観察プログラム・キャリアプログラム・各種教材の充実
【多様なネットワークのハブとなる場】	⑨ ボランティアとの協働を推進、地域との連携強化
【情報発信の拠点となる場】	⑩ 多様な情報発信ツールを利用した効果的な情報発信

（３）園の教育普及コンセプト

恩賜上野動物園の教育普及計画で目指す方針を、以下のとおり「園の教育普及コンセプト」として定めます。

〇動物と動物園の情報を、より多くの方々に「伝える」ことで、人々が野生動物保全への一歩を踏み出せるよう、国内有数の来園者数を活かした取組を進めます。実施に当たっては、恩賜上野動物園だけでなく、教育普及センターや他の都立４園、国内外の動物園や野生動物保全活動機関など様々な主体と連携し、効果的に実施します。

〇老朽化施設の更新や、アニマルウェルフェアに配慮し、動物がいきいきと暮らす、魅力ある動物園を作っていきます。また、ふれあい等の体験型の活動については、動物側の視点に立った配慮を行うとともに、「学び」につながるような、より適切かつ効果的なプログラムを検討・実施します。

〇上野の杜の地域性を踏まえ、博物館等の近隣施設等との連携を進めるとともに、先端技術や様々な手法を活用した効果的な情報発信を行います。それにより、園だけでなく、地域の魅力向上にも貢献していきます。

〇多様な来園者を迎える動物園として、より一層ユニバーサルデザインに配慮し、快適で安全な観覧環境とホスピタリティを提供します。

（４）教育普及テーマごとの計画　～取組計画・主な実施項目～

【いつでも楽しく学べる場】

動物園・水族園に訪れる人々が、いつでも楽しく学べる場であるために、園内で実施する定例の教育普及プログラムや、動物と間近に接する体験を提供する教育普及活動を強化します。また展示の一部である展示サイン、さらに企画展・特設展、セルフで楽しめるクイズシートなど、プログラム等に参加できない来園者にも常に新たな学びを提供します。

①　定例の教育普及プログラムの強化

▶取組計画

飼育係や動物解説員に限らず、動物園に携わる多くの職員が、それぞれの得意な分野の情報を発信したり、さまざまな切り口の特設展や環境学習プログラムを企画するなどし、より多くの来園者に対して、魅力的な展示と、来園者の理解促進につながる情報を効果的に提供します。

▶主な実施項目

〇動物解説員によるガイド
〇飼育係のおはなし（キーパーズトーク）
〇ビバリウム特設展
〇動物と動物園に関する質問への対応

毎回異なるテーマで開催される
ビバリウム特設展

ゴリラ担当による「飼育係のおはなし」

② 動物と間近に接する体験（動物介在教育）の充実

▶取組計画

子どもたちが動物や自然について学びはじめる最初の一歩とするため、「子ども動物園すてっぷ」で、さまざまな環境学習プログラムを展開します。これらのプログラムで動物を使用する場合は、動物側の視点に立ち、アニマルウェルフェアや感染症対策に配慮した、より適切かつ効果的なプログラムを検討・実施します。

▶主な実施項目

〇「子ども動物園すてっぷ」で実施する各種環境学習プログラム

（プログラム名称は、変更の可能性あり）

・モルモットとなかよし（保育園・幼稚園・小学生対象）

・もっと知りたいモルモット（保育園・幼稚園・支援学校対象）

・家畜ってすごい（小学校１～3 学年対象）

③ 展示での学びのサポート強化

▶取組計画

動物園が、動物と動物園に関して様々なことを「伝える」ため、種ラベル・解説サイン等の充実を図り、多くの来園者が常に情報にアクセスできる取組を進めるとともに、発信する内容の精査や、最新情報へ更新していきます。また、老朽化した施設の更新にあたっては、環境学習の取組も考慮に入れた計画を策定します。

▶主な実施項目

〇園内展示種ラベル、解説サインの更新

〇クイズで発見の実施

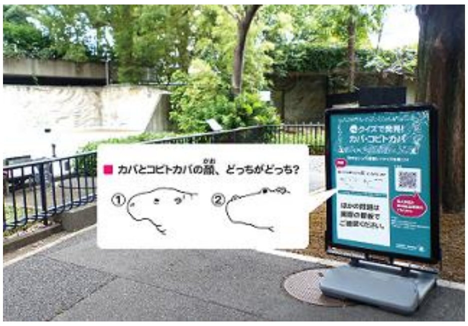
〇観察ガイドブックレット

〇月刊紙「見どころ新聞 ZOO　TODAY」

〇西園エリアの老朽化施設改修改築に合わせた、環境学習機能の強化と情報発信の充実

〇動物園サポーター資金等の活用による、動物の生態がより伝わるような飼育展示環境の向上

子ども動物園ステップでの活動の様子



クイズで発見（看板と問題の一例）

【誰もが楽しめる場】

動物園・水族園には子どもから大人、障害がある方、訪日外国人など、多様な人々が訪れます。来園した誰もが楽しめる場所であるように、対象と狙いが異なる様々な教育普及プログラムを充実させていきます。また、こうした取組を通じ、より多くの方を呼び込んでいきます。

④ 集客力のある教育普及プログラムの強化

▶取組計画

多くの希少種を飼育していることを活かし、それらの動物をテーマにしたプログラムを実施することで、より多くの参加者を集め、効果的に情報を発信していきます。また、夜間開園や開園時間の延長と、そこでの魅力的な企画の開催により、ゆっくりと動物園を楽しむことをきっかけとして、より多くの動物たちのことを知る機会を提供していきます。

▶主な実施項目

〇開園記念イベント
〇パンダの日企画
〇真夏の夜の動物園
〇新春イベント

開園 140 周年の歴史を振り返る大型パネル

⑤ 長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実

▶取組計画

子どもから大人までの多様な年齢層や、それぞれの興味関心などを考慮し、ターゲットや内容を明確にした取組を強化し、より効果的に「伝わる」プログラムを実施します。その際には、単に飼育動物について伝えるだけでなく、野生生物の保全に取り組む団体との協働を通じて、生息域内の情報を発信し、より広く野生動物の保全について伝え、多くの来園者に、専門的知見の普及を図り、人々の行動の変革につなげていきます。

▶主な実施項目

〇うえの ZOO スクール（小学生対象）
〇うえの ZOO スクール（中学生対象）
〇野生動物に関する講演会（一般対象）

⑥ 誰も取り残さない教育普及活動の推進

▶取組計画

特別支援学校等の児童や生徒が来園した際の、プログラムの充実を図ります。また、障害や疾病、遠隔地などの理由で、来園が難しい方々に対しても、様々なプログラムを実施します。さらに、ユニバーサルデザインや、多言語に配慮した快適で、安全な観覧環境の提供と、ホスピタリティの充実を通して、あらゆる方々が来園し、楽しみ、学べる空間を作ります。

▶主な実施項目

〇ドリームナイト・アット・ザ・ズー
〇都内を中心とした特別支援学校・盲学校等との連携
〇子ども動物園の ZOO スクール（特別支援学校向けプログラム）
〇展示解説サインの多言語化

うえの ZOO スクール（中学生対象）

ドリームナイトアットザズーでの観覧の様子

【動物の未来を考える場】

動物園・水族園は、地球上の動物とわたしたち人が共に生きる未来のために、学び、考え、行動する場です。その入口となる自然体験へつなげる、フィールドプログラムを強化するとともに、希少野生動物の保全に貢献する、対象やテーマを工夫した、多様な教育普及プログラムを充実させます。

⑦ 環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化

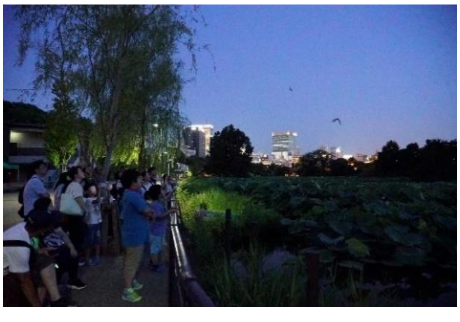
▶取組計画

ズーストック種を中心とした企画を展開することで、第２次ズーストック計画の実効性を高め、野生動物の保全に貢献していきます。また、野生動物の生態についての理解をより深めてもらうため、飼育動物と、フィールドの野生動物をつなげるプログラムを実施します。その実施にあたっては、園内に生息する動物にも着目し、私たちの隣人としての、野生動物の存在や、大切さにも、気が付いてもらう取組を進めます。

▶主な実施項目

○保全講演会（都立動物園・水族園合同企画　身近な水辺保全講演会等）
○生物多様性の日、世界ゴリラの日等での情報発信
○文化財ウィークでの情報発信
○セミとコウモリの観察会

保全講演会「神の鳥ライチョウを守る」



セミとコウモリの観察会

【学校での学びをサポートする場】

学校教育との連携は、動物園・水族園の大切な取組の一つです。幼児から大学生まで年齢や学年に沿った体系的な教育普及プログラムを充実させ、学校教育との連携を強化します。

⑧ 学校向けの動物観察プログラム・キャリアプログラム・各種教材の充実

▶取組計画

すべての学齢期に向けたプログラムを整備し、切れ目のない動物園教育に取り組みます。子どもたちへの直接的なプログラムだけでなく、教員向けプログラムの見直しや、教員研修の受け入れを通して、教員から子どもたちに動物園の学びが伝わる取組を一層進めます。また、これまで、職場体験・職場訪問として実施してきたプログラムを、キャリア教育の視点からとらえなおし、より学校現場の実態に即した内容とすることで、動物園の理解者を育成します。

▶主な実施項目

〇子ども動物園のプログラム（幼児・小学生対象）
〇動物観察や保全等をテーマにした団体向けプログラム
〇職場体験・職場訪問・インターンシップ等のキャリア教育支援プログラム
〇博物館実習・飼育実習等の受け入れ
〇授業に活かせる「動物園・水族園」講座（教員対象）
〇教員研修会開催への協力
〇貸出教材（オンライン配信による動画教材等）
〇出張授業
〇標本類（骨格・剥製・卵殻標本等）の作成

学校向け動物観察プログラムの実施

出張授業

【多様なネットワークのハブとなる場】

ボランティアとの協働を推進するとともに、動物園・水族園が中心となって様々な教育・文化施設、または鉄道事業者など周辺の施設や企業との連携を強め、効果的な教育普及活動を推進します。

⑨ ボランティアとの協働を推進、地域との連携強化

▶取組計画

東京動物園ボランティアーズと協働し、来園者の立場に立った情報発信や案内接遇の一層の充実を図ります。また、地域との関係では、台東区や上野公園、上野駅周辺の文化施設、地域団体や民間企業等との連携を強化し、動物と動物園の取組を正確に、より多くの方に伝えるとともに、地域の発展に貢献し、地域に根差した動物園としての魅力向上を図ります。

▶主な実施項目

○東京動物園ボランティアーズによるスポットガイド
○東京動物園ボランティアーズとの研修会・連絡会の開催
○「国際博物館の日」での上野恩賜公園内施設との連携
○周辺施設、団体、企業との連携
○Visit Zoo 事業

東京動物園ボランティアーズによる
スポットガイド

「国際博物館の日」記念ツアー
（上野の山で動物めぐり）

【情報発信の拠点となる場】

動物園・水族園は、動物や自然環境に関連する情報発信の拠点として、多様な情報発信ツールを活用し、効果的な情報発信を行います。

⑩ 多様な情報発信ツールを利用した効果的な情報発信

▶取組計画

園内では、先端技術を活用した情報発信を進めるとともに、園外には、UENO ZOO STUDIO からのオンラインプログラムの発信や東京ズーネット、SNS などを使った情報提供など、様々なツールを活用した情報発信を積極的に進めることで、来園者に限らず、より多くの人々に動物と動物園の魅力や野生動物保全や環境保全のメッセージを伝え、恩賜上野動物園に来園するきっかけにもつなげていきます。

▶主な実施項目

〇ホームページ（東京ズーネット）での情報発信
〇マスメディアを活用した広報活動
〇プレスリリースや取材対応
〇Twitter、Instagram での情報発信
〇YouTube での情報発信（ジャイアントパンダ状況、講演会アーカイブ配信等）
〇UENO ZOO STUDIO を活用したオンライン授業

「シャオシャオ・レイレイ１歳を祝う会」での取材対応

オンライン授業をおこなう動物解説員

本計画に該当する確認指標・具体的な確認項目及び目標値一覧

	確認指標	具体的な確認項目	10年目目標値（令和12年度）
取組１(再掲)	来園者の視点で常設展示や施設の魅力が向上した	展示改善の実施件数	310件※１
	魅力的なプログラム、イベントが開催されている	利用者アンケートの調査結果	3.3
取組２(再掲)	多くの来園者が魅力を感じて訪れる施設になっている	年間来園者数	700万人（４園合計※２）
	多様な来園者を呼び込む取組がなされている	Twitter投稿件数	―※3
取組３(再掲)	誰もが快適に観覧できる環境を提供している	快適環境に向けた園内施設の維持管理実施件数	1,600件※1
	来園者が満足している	利用者アンケートの調査結果	3.6
取組４	地域への動物関連情報の提供が行われている	他団体との連携企画、地域イベント等の実施件数	30件
	自治体等の地域と連携した取組が進んでいる	地元警察・消防と連携して行った訓練の実施件数	2件
取組５(再掲)	多くの方に積極的に都立動物園や野生動物の情報を発信している	東京ズーネット投稿件数	130件
	園内外でICTなどの先端技術を活用した情報発信がされている	動画新規配信件数（ズーネットBB、YOUTubeチャンネル）	1800件※1（4園合計※2）
取組６(再掲)	飼育職員による情報発信が強化されている	キーパーズトークの実施件数	1,400件
	動物園を案内するガイドツアーのプログラムが充実している	ガイドツアーの実施件数	200件
取組７(再掲)	動物をテーマにした特設展・企画展が充実している	特設展・企画展の実施件数	5件
	東京都(伊豆諸島・小笠原諸島含む)に分布する野生動物に関する情報発信が強化されている	東京都に分布する野生動植物に関するズーネット投稿件数	110件※1（4園合計※2）
取組８(再掲)	園外のフィールドにおいて動物の魅力を伝えるプログラムを実施し、身近な野生動物への理解を促している	フィールドプログラムの実施件数	2件
	来園が困難な方などへの環境学習プログラムが充実している	団体プログラムの実施件数及び葛西臨海水族園の移動水族館の実施回数	20件
取組９(再掲)	将来の保全の担い手となりうる人材を育成している	教員セミナーの実施件数	3件
	教育的な効果が高い団体指導プログラムを実施している	学校団体向けプログラムの実施件数	430件
取組10(再掲)	ボランティアの育成が進んでいる	ボランティア対象の研修会の実施件数	4件
	ボランティアとの協働による教育活動が行われている	ボランティアによる教育活動の実施件数	550件
取組11(再掲)	希少種の飼育管理を適正に行い、繁殖が推進されている	国内外血統登録対象の繁殖種数	32種※1
	多様な種を飼育し、飼育個体の情報を適正に管理している	国内外血統登録対象の飼育種数	57種
取組13(再掲)	ズーストック種の繁殖が進んでいる	ズーストック計画で計画どおり繁殖に成功した種数	124種※１
	ズーストック計画に基づき対象種が適切に維持管理されている	ズーストック種における「飼育繁殖」「保全情報」「普及啓発」の分野において、適切に推進されている取組数	378※1
取組14(再掲)	管理技術の向上により、動物を安全かつ健康的に飼育する環境が整っている	ハズバンダリートレーニングの到達度	―※3
	飼育動物の選択肢を増やし、正常な行動を引き出し、健康的に飼育する取組が進んでいる	展示施設におけるエンリッチメントの取組件数	―※3
取組17(再掲)	大学・研究機関との共同研究により新たな知見が得られている	共同研究の実施件数	70件※1
	野生動物保全の取組の必要性を広く発信している	講演会・シンポジウムの実施件数	7件
取組19(再掲)	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関とのネットワークが強化されている	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関等との協定締結件数	10件（４園合計※２）
	飼育繁殖技術や展示の魅力向上のために、国際的な連携が進んでいる	海外との連携の中で行われた、会議・学会等への参加件数、動物交換、研修などの実施件数	9件

※1 10 年目までの累積件数
※2 建設局所管の都立動物園・水族園
※3 新たな取組や、過去の十分な実績値の記録がないなど、現時点で適切な目標値の設定が困難な項目。取組状況を検証した上で目標値を設定する。